



みはら 玉手箱



1. 市民学芸員です

(1) 期待されている役割

古代から、陸路・海路の要衝であり、鏡のような瀬戸内海と、美しい山川に恵まれた我がまち三原市には、多くの歴史遺産や自然遺産があります。そこで、それらの文化財を保護したり、その価値を分かりやすく伝える人材が求められます。

(2) 市民学芸員の養成

＜ステップ1＞ そのため三原市教育委員会生涯学習課が平成17年度から3期にわたり「文化財ボランティア養成講座」を開講し多くの受講生が、地域の歴史や文化財に関する基礎的知識を身に付けました。

＜ステップ2＞ その受講生を中心として平成20年11月には「三原市文化財協会」が設立され、平成21年度から市民学芸員の養成を目的とした講座が3期にわたり開講され、毎期70～80名が修了証書を手に入れました。

＜ステップ3＞ 平成24年度からは「市民学芸員実践講座」として名称も一新し、市内全域を「屋根のない博物館」として考え、まちづくりに活かして行くため、3つのグループに分かれて活動を開始しました。



(3) 発表方法

具体的な活動状況については広報みはらや三原市のホームページに新設の「みはら 玉手箱」を通してお知らせすることになりました。

玉手箱の中には、薄い煙に隠れた珍しい情報がぎっしり詰まっています。さあ、みなさん、毎月玉手箱を開けてみてください。きっと三原がもっと好きになりますよ！

そして、みなさんの手許にも玉手箱に入れたい宝物がありましたら、ご連絡ください。沢山ある三原の宝を、みんなで共有し、三原市以外の人にも紹介すれば「三原に行ってみたい人」がどんどん増えて、元気なまちに発展するのではないのでしょうか。

2. 24年度のグループ紹介

1. 収集グループ

三原市中央図書館、三原市歴史民俗資料館をはじめ、市内の写真館等に保存の膨大な量の古写真を調査し、整理分類作業中。



〔昭和30年の三原駅前〕

2. 体験グループ

三原市内の小学校高学年を対象にした「三原再発見」の体験学習を企画する。

＜訪問先の候補＞

三原城跡、三原城に関連のある市内のお寺など。



〔三原城天主台跡〕

3. 情報発信グループ

「広報みはら」や「三原市のホームページ」で三原の宝物紹介や、市民学芸員企画のイベント案内等を担当。

〔連絡先〕

三原市教育委員会
生涯学習課
TEL 0848-64-2137

E-mail ; syogai@city.

mihara.hiroshima.jp

みはら おもしろクイズ



(解答は最下段にあります)

1. 三原の誇る 日本一

(1) 東町の神明大だるま

備後路の春祭りで一番早く開催される三原の神明市。その神明市のシンボルでもある日本一の大ダルマを支える支柱近くには、「一の神明」がある。ここに保管されている一対の瓶子(へいし)は、どの殿さまからの贈り物でしょうか？

- (ア) 浅野忠吉
- (イ) 福島正則
- (ウ) 小早川隆景



高さ 4.3m、腹囲 3.5m、重さ180kg
台座の高さ 4.5m



へいし
一対の瓶子(酒どっくり)

(2) 大和町の阿部白桃



大和町の阿部農園で開発された阿部白桃の重さは、通常の桃の2倍程の450g~500gもあり日本一。加熱しても形が崩れないのでケーキ用に適している。

その重さが 1kg を越えたことが
(ア) ある
(イ) ない

(3) 本郷町の広島空港大橋(愛称 広島スカイアーチ)



アーチ部長さ 380mは日本一。橋長800m、
県道からの橋面高さは 190m 。

平成24年4月20日開通、アーチ部長さ380mは、新木津川大橋の305mを越えて日本一の長さになった。

この大橋は、沼田川、県道33号、JR山陽線を跨いでいるので、建設には特に安全が重要視された。

この三原の新名物大橋の展望用に整備された公園は、

- (ア) 樓真寺公園
- (イ) 安国寺公園

である。



三原のお祭り



天

高く馬肥ゆる秋！爽やかな秋晴れの季節となりました。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、たくさんの秋がありますが、秋はやっぱり祭りの秋、“秋祭り”の季節到来です！みはら玉手箱「三原のお祭り」では、三原の各地域で行われているお祭りを紹介します。



お祭りっていろんなや形があるにゃあ。神明さんや、やっさとか。そもそもお祭りってにゃんだ？

お祭りは、神さまと私たち人間の交流の営みです。供え物や行為など、神さまにさまざまなものが奉げられ、儀式が行われます。「五穀豊穡」「商売繁盛」「無病息災」「家内安全」「子孫繁栄」「祖先崇拜」「天下泰平」など祈願して、またその成就に感謝して、人々はお祭りを行いました。 **にやるほどにゃ・・・**



今

回は市民学芸員養成講座第Ⅲ期生のレポートの中5人の方が挙げた、

おがたまじんじゃ

三原市沼田東町片島の「**小方島神社 秋季例大祭**」を紹介します。

このお祭りは、毎年10月の第4日曜日に、神輿(みこし)三体(前の御前、中の御前、後の御前)の行幸(ぎょうこう)と、神楽(かぐら)の奉納が行われます。

神

輿を担ぐ当番は、沼田東町全8地区と沼田西町惣定地区の合計9地区が3年に1回の勤番制で務めます。

当番地区は前日の夕方、神社本殿にてご神体をいただいた後、神輿を地区に持ち帰ります。そして養生を兼ねて白いさらしを巻き、お神酒を供え無事を祈ります。

大

祭当日は氏子たちが白装束で集合し、率領役の号令のもと、地区内の巡行が始まります。ただ最近では担ぎ手不足のため、要所々を除きトラックに神輿を積んで巡行しています。それでも最後の宮入りは大鳥居から長い参道を交代で担いで駆け上がり、まず鳥居前の大広場でもみ合い回し合いをし、鳥居をくぐってまた本殿前で最後にもみ合い、そしてその後、神輿は御旅所(おたびしょ)に鎮座します。3体が揃ったところで神事が行われ、小方島神社秋季例大祭は終了します。

午前中、本殿では神楽が舞い、くじ引きもあり、お祭り気分を一層盛り上げています。かつて(昭和30年代初め頃までは)境内に沢山の露店が出て、大層賑わっていたそうです。

勇壮で楽しそう。だけどみんなの協力が大切だにゃあ。

そうそう、地区の総代さんを中心に、氏子さん達が、注連縄(しめなわ)を縷(な)ったり、神社を掃き清めたり、神輿の手入れをしてお世話をしています。当番の年は大変だけど、自分たちの地域のお祭りを誇りに思って、大切に守っているんですね。それをこれから

先までしっかり受け継いでいきたいですね。



<石段を勢いよく駆け上がる様子>



<広場でもみ合っている様子>



<御旅所に鎮座した三体の神輿>



石碑が語る三原の歴史

三原市にはたくさんの石碑があります。石碑に刻まれている内容やその形態は様々で、みなさんも関心をもたれたことがあると思います。市民学芸員養成講座(第Ⅱ期生)では「身近な石碑調査」を行い、80基(重複も含みます)についての個人レポートが集まりました。

よく周知されているものから普段なかなか目に触れることのないものまでバラエティーに富んでいます。このコーナーでは散歩や健康ウォーキングの途中に、ちょっと足を止めてみては?と思える「道標」、「記念碑」、「句碑・詩碑(歌碑)」にスポットを当てて簡単なマップと共に紹介することになりました。講座受講生の居住地の関係で、旧市内や本郷町周辺の紹介が中心となります。その第1回目です。

道 標

ほとけがたお くにざかい ひ
仏ヶ峠の国境碑



表



裏



(南側の石碑)

(北側の石碑)

是より東 備後国

是より西 安芸国

是より

西 安芸国豊田郡長谷村本郷駅

東 備後国御調郡西野村三原駅

現三原市が安芸と備後のふたつの国から成り立っていた地域であることが確認できる貴重な道標。北側は新倉ハイツ入口に在り、自動車の衝突により中ほどから折れたため、セメントで接合し、四方を鉄枠で補強され明治11年の再建時の姿が変わってしまったのが惜しい。文化2(1805)年太田蜀山人が著した「小春紀行」にも石案内の記載があり、再建前にこの道標が存在していたと思われます。南側は県立広島大学三原キャンパス入口に在り、大正3(1914)年に建立されています。



記念碑



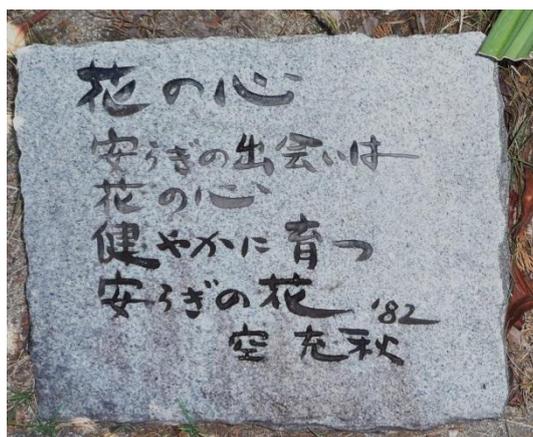
定屋和尚架橋之碑



定屋橋(通称新倉橋)

定屋和尚は現在の田野浦町の「雙照院」の江戸時代の住職。先代の満目和尚の意志を継ぎ、天保5(1834)年に沼田川に初めて長さ170m、幅4mの板橋を架けましたが、洪水により流失しました。嘉永3(1850)年に再び架橋し、その功に対し広島藩主より定屋橋(じょうおくばし)と命名されました。現在の橋は6代目となります。

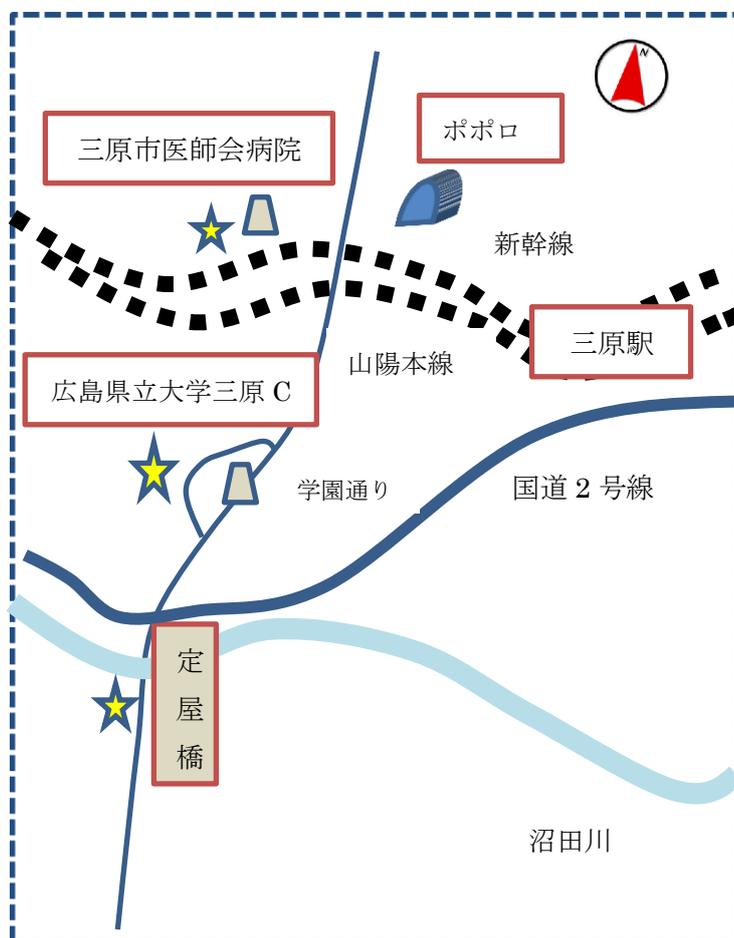
句碑・詩



三原市医師会病院の表玄関のモニュメントの傍らにこの句が刻まれています。

作者は空充秋氏。昭和57(1982)年の設置。悩み、傷ついた人々には心に安らぎが必要であり、医師会病院は地域に咲く花のようにありたいとの願いが込められています。

概略マップ





三原にある狛犬



市民学芸員(第Ⅰ期生)養成講座の個人レポート「身近な神社の狛犬調査」では、市内39箇所47対の狛犬、125件が報告されました。この47対の狛犬をこのコーナーで順次紹介します。

狛犬とは

神社に奉納、設置された空想上の守護獣像。本来は「獅子・狛犬」といい、向かって右側が口を開いた角なしの「阿像」で獅子、左側が口を閉じた角ありの「吽像」で狛犬です。時代を経るに従って、獅子と狛犬の区別が曖昧になり、形の上では獅子のほうが主流となり、呼び方は「狛犬」が定着しました。

狛犬の起源

古くは古代オリエントにまで遡ります。国王が強大な力を得るために、地上最強の動物と思われていた獅子(ライオン)の力を王に宿らせるという思想があり、玉座(王の椅子)の肘掛に獅子頭を刻んだりするようになりました。(獅子座思想)

狛犬の由来

インド・ガンダーラを經由して、獅子座思想は中国に入ります。中国人は龍や麒麟など、様々な霊獣を生み出し、獅子も羽をつけたり角を生やしたりして、どんどん空想上の生き物に変質させます。いわゆる「唐獅子」と呼ばれる派手な獅子像は中国文化が生み出した独特のものです。中国でも皇帝の守護獣として獅子像が定着したが、それを見た遣唐使が日本に帰ってきてから宮中に獅子座思想を持ち込んだのです。しかし、日本に持ち込まれた直後に、一対の獅子像は日本独特の「獅子・狛犬」という形式に変化しました。

(asahi-net「100万人の狛犬講座」より抜粋要約)

「身近な神社の狛犬調査」例



* 次回から、神社ごとに大きさ・製作年代・製作者(石工)・石材などを、詳しく紹介します。